

こまざわ 経済通信

発行
駒澤大学経済学部
同窓会
〒154-8525
東京都世田谷区駒沢
1-23-1

卒業おめでとう！

ご卒業おめでとうございます。駒澤大学の卒業生の一人として、そして社会人の一人として、皆さんと一緒に新しい社会を築いていけることに喜びを感じています。

剣豪宮本武蔵は「我以外皆我師」という言葉を残しています。謙虚な「学ぶ心」の大切さを語る言葉です。卒業のお祝いとして同窓会から皆さんへこの言葉を贈ります。

社会に出た皆さんは、最初は未熟な社会人と思われる立場になります。しかし謙虚に学ぶ心を忘れず、いけば、人格ある人物として評価されます。そして将来大成してもその姿勢を忘れないことが大切です。

同窓会は、卒業生が集う組織ですが、過ぎし日のノスタルジーを語る場ではなく、上記のような人生訓を得そして発露し、未来に向けて人を育てることができる場です。

皆さん、是非同窓会に入り、共に社会に貢献していこうではありませんか。



経済学部同窓会会長
大場やすのぶ会長

新しい時代に向かう経済学部

平成29年3月には2名の先生が退職を迎えられます。また、新年度には3名の先生が就任し、学部と大学院の新執行体制も発足します。経済学部は教授陣の世代交代と教育改革によって新しい時代に向かって大きく変貌しようとしています。

定年退職（平成29年3月）
山縣 弘志 教授（ロシア・東欧経済論：勤続41年）

退職（平成29年3月）
有井 行夫 教授（経済理論：勤続40年）

就任（平成29年4月）
水野 祥子 教授（西洋経済史）
田中 綾一 教授（現代ヨーロッパ経済論）
小倉 将志郎 准教授（現代アメリカ経済論）

経済学部長（平成29年4月）
代田 純 教授（金融論）

大学院委員長（平成29年4月）
経済学研究科：館 健太郎 教授（産業組織論）
商学研究科：中津 光昭 教授（情報経済ネットワーク論）

退職にあたって

山 縣 弘 志 教 授

1975年に新米の経済学部講師として着任し、41年間の駒澤大学の移り変わりを見てきました。通勤が渋谷発のバス（前年に玉電が廃止）から地下鉄に、研究室が7号館—高校の校舎だったと聞きました—から第1研究館、第2研究館へと変遷しました。本館も美しく味のある木造からビルへと建て替えられました。現在新築中の新館を使うことなく去るのが残念ですが、たまには遊びに来させていただこうと思っています。

学部長職にあった時突然発覚した巨額損失問題を克服し、新時代の駒澤に進むことができているのは、後援会、OB、OGの皆様、そして進学してくれる学生諸君のおかげです。彼らのファッションも雰囲気も私の赴任当時と比べていわゆる「都会的」に変わってきたと思いますが、駒大らしさ、上滑りせず堅実なバランス感覚は受け継がれていると感じます。

ゼミナールでは比較経済論を掲げて学生諸君に日本を相対化して見ることを説いてきましたが、在外研究の機会を頂いた時に知り合ったフィンランド人家族と交流を深めるにつけ、より良い働き方とは何か、人生をいかに楽しむか、市民中心の社会を作るには何が必要か、常に考えさせられます。退職を機会に、教員の立場を離れて勉強を続けたいと思います。世界を見る機会を与えていただいた駒大に感謝いたします。



ゼ ミ 紹 介
小 林 ゼ ミ

小林 正人 教授（日本経済論 担当、2000年就任）

駒澤大学に奉職して17年が過ぎた。今日まで、200人以上のゼミ生の成長を見守ってきたが、学生たちが自信をもって社会に飛び立てるようになるには何ができるかという自問自答の繰り返しでもあった。

ここでは、最近のゼミにて試みている「アクティブ・ラーニング」について紹介したい。

毎回のゼミは、当日の担当グループが、割り当てられたテキストの章を要約したレジュメを全員に配り、それをプレゼンすることから始まる。これはどのゼミでも共通していると思う。

そのうえで、担当グループは、その章の中から疑問点や論争点を見つけ出し、それを文章化した文書をみんなに配付する。ほかの3グループはこれにたいする自分たちの解答を話し合い、順番に発表する。全グループの意見は、ワープロを使ってその場で、教室の前のスクリーンに一覧表示される。それを比較しながら、グループどうしの質疑応答も行なう。2年生の前期にはちぐはぐになることもあるが、励ましながら指導を続けると、後期からはグループ討論としてしっかりと定着している。

今年の3年生にアンケート調査をすると、「人前に出て発表し説明する能力、文書力は格段に向上した」とか、「プレゼンで自分の考えを伝える力、意見交換により周りの意見を聞く力がついた」などの回答があった。この自信が、社会に出て役に立ってほしいと願う。

このほかのゼミ活動として、工場見学（日産自動車、キューピー、富士重工業、花王）が好評である。また今年度には、トヨタ産業技術記念館などを見学するための1泊2日のゼミ旅行を敢行し、充実した研修になった。

また、経済学部主催の「学生奨学論文」では2013年に2人、15年にも2人のゼミ生が「佳作」をいただいた。これを中心に、卒業論文集として『現代経済学生論集』を刊行し、後輩たちが受け継いでいる。



ゼ ミ 紹 介
松 井 ゼ ミ

松 井 柳 平 教授 (理論経済学 担当、1995年就任)

Rに夢中♡

Rに夢中です♡と言っても先生のことでなくて、フリー統計解析ソフトウェア「R」のことです。ゼミではRを使って統計学によるデータ分析をおこなっています。

統計解析ソフトウェアRはExcelよりも分析手法が圧倒的に豊富です。そのため、回帰分析、時系列分析、決定木、階層クラスター分析、ベイジアンネットワークなど様々な分析が可能です。プログラムやコードとも呼ばれる様々な関数などのコマンドを入力することで分析することができます。

決定木、階層クラスター分析など、視覚化が伴うような手法はRのほうが非常に簡単に実行できます。とくに役立っているのがcaretとggplot2というパッケージです。caretは予測モデルを構築する際に役立つモデルやデータを簡単に選択できる機能を含んでいます。例えば、階層クラスター分析はRではhclust()関数を使うだけです。言葉で説明するよりも一目瞭然です。

これまでさまざまなデータを用いて分析してきました。最初の方では、映画「タイタニック」のモデルになった豪華客船タイタニック号の航海中の事故のデータを用いて、生存者約700人と犠牲者約1500人の生死を分けた諸要因について、決定木を用いた分析をおこなったのが印象的です。最近では株価データの共和分検定をおこなっています。インターネット上からのデータの自動取得や、コードを組んでの分析、それに先立って、ゼミ生有志によるランダムウォークなどの単位根過程とは何か、さらに共和分とは何かについての体を張った寸劇も演じられ、大いに盛り上がりました。

Rを使い、データを読み込んでデータの分析を行う作業は、見た目は難しそうでしたが、やり方を覚えたり理解することでデータが見えてくるため、やりがいや自分の成長を感じました。またゼミの時間に全員の前での発表もあるため、いかに全員が理解できるかなどを考えたり、質問に答えられるようにしないとイケないので大変ですが、就活の準備の練習にもなっており、日々精進しています。

松井ゼミ3年生 萩野、白井、司、大橋、山本



研究室訪問シリーズ

深見 泰孝 講師 (証券市場論 担当、2015年就任)

2015年度に着任いたしました深見泰孝と申します。私は証券市場論を担当しております。また、ゼミでは2年生は証券市場論の基礎的な知識の涵養に努め、3年生は全国の大学が参加する証券ゼミナール大会への出場、4年生は卒業論文の執筆をしております。今年度は3年生ゼミが先述の大会(今年は30大学43ゼミが出場)に2チーム参加し、両チームともそれぞれのブロックで2位と大健闘しました。しかし、この結果に満足せず、来年こそはリベンジしようと、2年生ゼミ生と来年度の大会に向けた準備を既に始めています。

授業に関する話が長くなりましたが、現在の私の研究テーマは、日本の証券市場の歴史と証券会社経営です。日本の証券市場は、戦前、戦後で断絶が生じたと言われてはいますが、戦時体制下のそれを分析した研究はほとんどなく、研究史上の空白が存在します。そこで、そこを基点に現代に向かって、歴史的な分析を通じて戦後日本の証券市場の特質を明らかにしようとしています。

他方で、日本の証券会社を取り巻く環境は、金融ビッグバンとIT革命があった1990年代末以来、大きく変化しています。まず、手数料自由化と同時にネット証券が参入したことにより、ブローカー業務の収益性が著しく低下しました。そして、2010年の東証によるアローヘッド導入以後、HFTによる売買が急増し、ディーリング業務での収益獲得も困難になりつつあります。さらに、FinTechの登場により、低コストでのアドバイザリー業務も可能となったため、証券会社のビジネスモデルは変革に迫られています。そこで、各社の経営者へのヒアリングを通じて、各社のビジネスモデルの特色を明らかにし、新たなビジネスモデルのあり方について検討しています。

このように制度面は歴史的に、証券会社経営は現代からそれぞれアプローチし、日本の証券市場の特質や今後の証券会社のビジネスモデルのあり方について検討しております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



同窓会後援ソフトボール大会

2016年10月15日、第26回経済学部ゼミ対抗ソフトボール大会が玉川キャンパスグラウンドで開催されました。スポーツの秋にふさわしい爽やかな秋晴れの下、熱い試合が繰り広げられました。

私たちのゼミは開会式前の朝8時に集合して、キャッチボール・ノック・フリーバッティングと万全の準備をして試合に臨みました。試合直前、昨年の優勝に引き続き連覇を意気込むゼミ生の表情は少し緊張しているようでした。それでも初戦を6-0で勝って波に乗ると、その後も順調に勝ち進み、決勝で村松ゼミに1-0で勝利して連覇を果たしました。大会にはシビアな場面もつきものですが、試合に出ないゼミ生も含めてお揃いのシャツを着て大きな声援を送るなど、大会を楽しむことができました。さまざまなゼミ生が「楽しめること」も経済学部ゼミ対抗ソフトボール大会の醍醐味だと感じています。

改めて大会の結果ですが、優勝は松本ゼミ、準優勝は村松ゼミ、第3位は吉田真広ゼミと井上ゼミ、敢闘賞は小栗ゼミとなりました。昨年と同様、今年も素晴らしい大会となりました。来年の大会も、ゼミ生同士の絆を深め、他ゼミとの交流も深まる素晴らしい大会となることを願います。

松本ゼミ4年ゼミ長 八巻慶祐



経済学部ゼミナール連合会主催「学生シンポジウム」

経済学部ゼミナール連合会は、11月20日に「第2回学生シンポジウム」を開催いたしました。

学生シンポジウムは駒澤大学の全学部を対象とした討論会であり、昨年度は第1回目の開催でありながら同窓会のご支援もあり、大成功を収めたイベントです。このイベントは、すべての学部、すべての学生が1つのキャンパスに集う駒澤大学だからこそできた行事でした。例えば1つの社会問題には文化、経済、歴史といった様々な要因が複合的に絡んでいます。近年の複雑化している社会に対応すべく、学生たちの主体性によって生まれたのがこの学生シンポジウムです。

今年度、学生シンポは大学公認のイベントとなり、第1回よりもさらに多くの学部やゼミを仲間に加え、19ゼミ、2サークル、総勢約200人を超える学生の参加を得ることができました。

また、今年度は多くのOB・OGの方々をお迎えすることができました。参加いただいた先輩たちからは「後輩たちの雄姿を見ることができて良かった」とのお言葉をかけていただき、懇親会ではOB・OGと現役学生との交流も進みました。一方で、研究発表の内容に対して、厳しいご意見もあり、今回の研究発表で培ったことを踏まえて、私たち学生は学問研究をさらに進めていかねばならないことを強く感じた次第です。

先輩方から多くの励まし・ご指導をいただき、駒澤大学の学生であることに心から誇りを感じる事ができ、また責任を自覚する1日になりました。日頃のご支援に加え、お忙しい中をご来場いただきましたことに心よりお礼申し上げます。

来年度以降も、参加する学部と学生数をさらに増やし、こうした取り組みを大学全体に広げていきたいと思えます。ぜひ来年度も、OB・OGのみなさまには後輩たちの日々のゼミ活動の成果をご覧いただき、ご指導いただければ幸いです。

学生シンポジウム代表 経済学部4年 尾関佑太



経済学部同窓会もホームカミングデーに参加

2016年10月30日、卒業生を母校に迎えるホームカミングデーが開催されました。今年は、午前は本校でオータムフェスティバル開催に合わせ、池田魯參総長先生による「懐かしの授業」、午後のパーティーはホテルグランドパレス（九段下）での開催となり、751人の卒業生が訪れました。懇親パーティーはホテルグランドパレスの会場でおこなわれ、あちこちにビールやワインのグラスを片手にした商経学部や経済学部卒業生の歓談の輪がひろがりました。そこでは、津軽三味線ユニット「輝&輝」による演奏も披露されました。

例年のように経済学部同窓会もブースを設置し、「こまざわ経済通信」や経済学部研究誌『経済学論集』を配布し、好評をいただきました。

ホームカミングデーは毎年秋に開催され、すべての卒業生に開かれたオープンな催しです。今年も多数の卒業生のご参加をお待ちしています。

同窓会事務局からのお知らせ

同窓会組織の強化にご協力ください

同級生、ゼミやサークルの仲間、地域のお知り合いで「経済学部同窓会」に加入していない方がおられましたらご紹介ください。未加入の方に事務局から入会案内をお送りします。

「こまざわ経済通信」の原稿募集

同窓会報の充実のため原稿を募集しています。積極的なご投稿をお願い致します。

- ・ 論題：自由
- ・ 字数：800字以内
- ・ 送付先：駒澤大学経済学部同窓会事務局（下記）

原稿の採否は事務局にご一任ください。

役員を募集しています

ボランティアで同窓会の仕事をしていただける方を募集しています。

軽い仕事なのでご負担になることはありません。

仲間と楽しみながら、同窓会と経済学部の発展ために貢献できます。

有志の方は事務局までご連絡ください。

経済学部同窓会事務局（経済事務室内）

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1

電話：03-3418-9343